

「禁止条約参加署名」推進ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話:03 - 5842 - 6031 2023年
FAX:03 - 5842 - 6033 E メール：antiatom55@hotmail.com 10月24日

署名を集めてNYへ！～TPNW 第2回締約国会議参加者の決意～

11月27日から12月1日までニューヨークの国連本部で開催される核兵器禁止条約第2回締約国会議・日本原水協代表団に参加する皆さんから、決意を寄せてもらいました。



私は「東京大空襲」で甚大な被害を受けた街、そして「第五福竜丸」のある街、東京・江東区に生まれ育ち、江東区役所の職員として、江東区職員労働組合で反核平和の運動に携わってきました。若い頃、組合の先輩から「第五福竜丸」保存運動の苦労話を聞き、核実験被害の「生き証人」を何としても残すのだという強い思いに感銘しました。第五福竜丸の前に立つと、いまでも特別な思いが湧いてきます。「江東区原爆被害者の会」と一緒に、区内に住む被爆者の皆さんの証言集づくりに携わらせていただいたこともあります。「反核・平和」は、私の労働組合活動の原点です。

「核兵器禁止条約」への参加国が増えつつけていることは、核兵器を巡る情勢の大きな進展です。「第2回締約国会議」は、世界中の人々の平和への思いと期待が凝縮された、歴史的な会議になるでしょう。この目で見届け、そして多くの人に伝えていく機会をいただいたことに感謝します。

(全国労働組合総連合副議長・石川敏明)

国際法上で違法と定めた核兵器禁止条約。恐ろしい核兵器を作ったのも人類ですが、言葉を使って話し合い、約束することができることも示してくれています。

条約は被ばく者の苦しみと被害に触れ、核兵器廃絶に向けた努力についても言及しています。被ばく者の方々と一緒に核兵器廃絶の運動を進めてきたわたし達にとって大きな励みとなりました。



全日本民医連は「人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守る」こと、そしてそれを「個人・団体と手を結び国際交流をはかる」ことを綱領に掲げています。今回、全日本民医連から代表として派遣されることになりました。第1回締約国会議では行動計画が示されたことにとっても感動しました。会議を通じてこの条約が進化して行く現場に立ち会えることをとても楽しみにしています。有意義な訪問になるよう、しっかり学んできたいと思います。

(全日本民主医療機関連合会常駐理事・宮澤洋子)

私は、東京学生ツアーとして、今年8月におこなわれた原水爆禁止世界大会に参加しました。また、東京学生平和ゼミナールとしては、高校生平ゼミと協力して署名集めにとりくんできました。

この度、核兵器禁止条約の第2回締約国会議に参加するという貴重な機会をいただき、大変うれしく思っています。核兵器廃絶へ向けた世界的な大きな流れを肌で感じたいです。海外で反核平和運動にとりくんでいる同世代との交流・意見交換もとても楽しみにしています。

(小薬 岳)



危機の中で...

日本の役割 私たちの選択

核兵器禁止条約による安全保障を

10.24
(火)

【18:00~20:00】
平和と労働センター 2階ホール
(東京都文京区湯島 2-4-4)

参加費 無料

主催：原水爆禁止日本協議会

パネル討論 | 2023年国連軍縮週間特別企画

危機の中で国連と日本の役割を考える
— 核兵器禁止条約による安全保障こそ人類を救う道

<https://youtube.com/live/CsCWCIXg3os?feature=share>

YouTube LIVESTREAM
オンライン配信

しんぶん赤旗
ワシントン特派員
島田 峰隆

「核兵器禁止条約の流れは止まらない
国連総会第1委員会の審議から」

コーディネーター
日本平和委員会
事務局長
千坂 純

日本共産党 参議院議員
井上 哲士

「日本の選択：
核戦争をよび込む大軍拡・核の傘か
核兵器禁止条約参加か」

日本原水協
事務局長 / 国際部長
土田 弥生

「第2回締約国会議に向けて
市民社会は行動する」

原水爆禁止日本協議会 (日本原水協)
東京都文京区湯島 2-4-4 平和と労働センター6階
TEL:03-5842-6031 MAIL:antiatom55@hotmail.com

第78回国連総会の第1委員会がはじまり、軍縮と安全保障にかかわる審議が開始されました。国連総会に求められているのは、人類が直面する危機を克服し、平和と安全の回復、核兵器の全面禁止と廃絶、抜本的な軍縮を達成し、その資源を人類の福利と環境、食糧、格差、エネルギー問題など直面するグローバルな諸問題の解決に向かうことです。

審議に勢いを与えているのは、機能を発揮している核兵器禁止条約であり、禁止条約による安全保障こそ危機打開のカギがあります。そのことを明らかにし、第2回締約国会議に向けて、日本政府に禁止条約の参加を求める運動の前進をめざします。

※ 臨時国会が20日からはじまり、国会審議の関係で山添拓議員に代って、井上哲士議員にバネリストを務めることになりました。